

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------|-----------|--|
| 事業所番号 | 2470300530 | | |
| 法人名 | 有限会社友の里 | | |
| 事業所名 | グループホーム友の里 | | |
| 所在地 | 鈴鹿市長沢町1750-1 | | |
| 自己評価作成日 | 評価結果市町提出日 | 令和2年2月14日 | |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Ji_gvosyoCd=2470300530-00&ServiceCd=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 令和 2 年 1 月 23 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な場所で、その人らしくメリハリのある日常生活を送っていただくこと。朝の体操後は、自分の部屋の掃除で始まり「自立が出来る方」個々の役割を持っていただき、自立した日常生活を送っていただく中で楽しみや生きがい絵の支援として、施設の庭に季節の「花、野菜、果物」を植え、季節の移り変わりを感じていただけること、またその野菜や果物を収穫しておやつや総菜にして収穫の楽しみを感じるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園風景に囲まれた自然豊かな環境にある事業所で、広い敷地にはみかん・柿・イチジクなどの果樹や桜・梅が植えてあり利用者が季節を楽しめるようになっている。職員が聞き取り調査による友の里利用者アンケートを実施し、日常生活記録に記入している。調査記録情報を職員が共有し利用者支援に繋げている。管理者・職員は、自治会長・民生委員・地域住民・地域包括支援センター・協力医・ボランティアの理解と協力を得、利用者が家庭的な雰囲気の中、豊かで安心して生活出来る事業所を目指し支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 共有できるように努力している。職員会議で確認し職員は日常の支援の中でお互いが理念にかなった支援しているかどうか指摘もしている。 | 「楽しく・ゆっくり・のんびり」がホールに掲示しており、日常の支援の中で、気がついたら管理者はもちろん職員同士も指摘し合っている。職員全員が常に理念を共有しながら利用者を支援している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事には地域の自治会長さんからの照会がありできる限り地域との交流をしている。 | 散歩時に地域の方と挨拶をしたり、近隣の農家から野菜やお花の差し入れがあったり、地域の方が気軽に事業所を訪れている。大正琴や手品のボランティアは来訪しているが、子どもたちとの交流が少ない事を今後の課題としている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | スタッフや施設入り口に掲示、介護にお困りの方などいつでも相談出来る事を地域の自治会、民生委員さん等に伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議、その都度取り組みや活動内容を伝え質疑応答、助言等話し合っている。 | 自治会長や民生委員との世間話が多く、自治会長が事業所まわりの市道整備を市に言ってくれている。事業所からの報告、地域包括センター・地域・家族からの意見や要望を話し合っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に参加していただいたり、困ったときは常に積極的に相談して協力関係を築くように取り組んでいる。 | 地域包括支援センター職員と連携し、常に情報交換をしている。鈴鹿亀山地区広域連合との連携を図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 夜間職員が一人になるとき以外は、施錠は基本的にはしてない。マニュアルを作成し理解を深める努力をしている。 | 身体拘束適正化の指針に沿った体制づくりは出来ている。身体拘束について朝礼やミーティングで話し合いをしており、職員会議で身体拘束について研修を実施している。昼間は玄関の施錠はしていない。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 朝夕の申し送り、また研修時に虐待防止について話し合っている。入浴時に全身をよく観察し内出血や打撲痕ヒヤリハットに詳細に記入し、回避に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者、ケアマネが研修に参加して活用している。また成年後見制度を利用されている利用者を通じて職員間でも話し合っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 丁寧に説明し起こりうるリスク、重度化についての対応等について詳しく説明している。不安な事がない等具体的にこちらから尋ね納得していただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 月1回の介護相談員の訪問、利用者様の思いを傾聴する機会を設け、また職員との情報交換をしている。家族の方の意見反映として意見箱の設置、面会日時相談要望を聞いている。 | 毎月「友の里たより」を発行し、家族・行政・関係機関に事業所の予定や取り組み状況を報告している。毎月の請求書の下に利用者の状況をメモ程度に記載し家族に送付したり、面会時に家族の意見や要望を聞いている。又、面会の少ない家族は電話で意見や要望を聞いているが、家族の意見は少ない。 | 家族が簡単に答えられるような項目のアンケートを作成し請求書に同封する等、利用者家族から気軽に事業所への意見や要望を聞き出す様な工夫が望まれる。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者、管理者、ケアマネがともに介護にかかわり職員と常に話す機会を設けている。 | 毎月開催する職員会議やミーティングで職員の意見や要望を聞くようにしている。職員の意見や提案を事業所運営に活かしている。職員の提案で2個の丸形の食卓を長方形の1個の食卓に作り直した。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者が現場の中で個々の勤務状況を把握して代表者等に伝えている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 資格取得の情報を提供したり、研修にも積極的に参加できるようにしている。認知症介護、実践者研修にはほとんどの職員が取得している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 事業所の施設見学や勉強会等を通じ互いの情報交換することで、サービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご自分から思いを伝えることが出来る方は少ないのでご家族から聞き取るようにしている。また普段のかかわりの中からくみ取るようにしている。入居時、契約時に要望を聞き取るようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の懇談で、家族の思いを聞き面会時や電話やまた毎月送付するお便りで近況を報告、連絡し、より良い関係づくりをしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前の懇談で、支援を見極め対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者と一緒に洗濯物を干したり、一緒に掃除や片付けなどまたご自分で出来ることはしていただき、お互い協力しながら生活をしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 行事の参加をお願いしたり常に家族と連絡を取り、ご家族の立場を理解し良い関係を築いている。月1回のおたより、年1回の家族会で情報を共有している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居前に馴染みの人との関係が途切れないよう本人、家族に聞き、面会や電話、手紙のやり取りが何時でも出来るようにしている。 | 家族や友人・知人等、多くの方に来てもらったり、手紙や年賀状を出す手伝いをしている。また、馴染みのお店や喫茶店に家族と行く利用者や、お盆と正月に家族全員が利用者が住んでいた元の家(現在は空き家)に集まり外泊している利用者がある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 合同のレクを企画したり(デイサービス利用の方)利用者同士が会話できる機会を作れるようにしている。会話が困難な利用者様に対してはスタッフが会話をつなげかかわりを持てるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了してもかかわりを大切にしている。退去された方の様子を見に行くことがある。看取りを実施しているので書類等の手続きの相談や支援も必要に応じて行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人からの希望が聞けない方は職員の毎日の関わりの中から声をかけ把握に努め、本人本位のケアが出来るように努めている。 | 職員が利用者から、行事や食事等の友の里暮らしについてのアンケートを聞き取りで調査している。調査結果を参考に事業所の運営に活かしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人家族の思いを聞き、職員会議で意見を交換し介護計画を作成している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者の身体状況や生活のリズムを理解し本人の行動、言動、表情から現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族の思いを聞き本人の思いを今までの生活、生い立ちから聞き出し、担当の職員を中心に会議で意見を交換し介護計画を見直し現状に合った計画を作成している。 | 利用者や家族との会話を傾聴し、上手く利用者の意向や要望を聞き出して、職員が意見や要望を文章で提出している。利用者の情報を共有し、職員の意見を反映しながら介護計画を作成している。4か月に1回モニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 気づき等は介護記録に記録している。また申し送りノートに細かく記入し、朝夕の申し送りの際繰り返し話し合い、意見交換し実践や介護計画の見直しに活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族の状況に応じ、通院など必要に応じて支援している。又外出支援は個別で昼食の外出や買い物等日々楽しみが持てるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域との交流等で野菜やお花をいただき、生け花、皆さんで野菜を選定し一緒に料理を作ったりまた施設庭での果物の収穫を楽しみ、また大正琴の演奏、マジック等ボランティアの協力で楽しい時間を過ごしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人家族の希望される病院へ受診されている。基本的には家族対応となっているが都合がつかない場合は職員が付き添い受診している。 | 利用者6人が協力医、2名が従来からのかかりつけ医で、利用者全員が月1回協力医の訪問診療を受けている。協力医が在宅医療のクリニックで24時間対応が可能である。他科への診療は家族にお願いをしているが、不可能な場合は事業所で対応している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ホームでは看護師は常駐していないが、隣接しているデイサービスの看護師と連携して対応している。緊急時は主治医在宅医療専門医と連携し24時間体制で対応し、適切な医療を受けられるように支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院した際は情報を提供し、時々様子を見に行き、状態を把握し、家族とも連携し退院後に安心して暮らせるようにしている。また病院の相談員とも情報交換している。退院時には主治医、ご家族、看護師、ケアマネ、管理者と連携し安心して暮らせる支援をしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化については入居時に説明してありますが、終末期のケアについてはご家族の思いに添える24時間体制の医療との連携を図り看取り介護に取り組んでいる。 | これまでに4名(去年は1名)の看取りを経験した。重度化した場合は、医師・家族・職員と話し合いを持ちながら対応している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 施設の廊下に備え付けのAED操作、人口呼吸組成訓練を実施している。今後も訓練研修を行う予定です。事務所に入り口にマニュアルを職員が何時でも目が通せるようにしてある。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災、震災に備えマニュアルを作成し、避難時に備え災害用品を常に玄関口に設置、また外に備品を置き、年2回利用者と共に訓練を行っている。 | 年に2回、火災と地震を想定した避難訓練を実施しており、地震や火災の時は駐車場へ避難する事になっている。手作りの避難袋が玄関に置いてあったり、災害時の水・食料等が備蓄してある。また、緊急用のライト・懐中電灯等が廊下に置いてある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者のプライバシーを損なわない対応をしている。職員会議ののりに職員の意義向上を図っている。また利用者の気持ちを考慮しさりげない声掛けや対応を心掛けている。 | 呼称はさん付けで呼んでいる。声を出さないで動作でトイレの誘導をしたり、使用済みの紙おむつやパットを新聞紙に包んで捨てている。また、利用者への言葉遣い等プライバシーを損なわないように配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者本人の趣味趣向に合った支援、自己決定への働き掛けに注意している。また言葉で意思を表せない利用者様には、入浴や衣類、食事の提供には、本人の状況に合わせて提供している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れが作ってありそれに沿って対応しているが、基本的には本人のペースを優先「食事、入浴、レク」参加は本人希望に沿って提供している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分で選べる方は自分で選択するように支援している。季節に合った衣服を選べない事も多いため付き添い一緒に決めながら対応している。又1日に何度も衣服を着替える方はさりげなく洗濯をし清潔な支援をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備や片付けを手伝っていただける利用者様には参加していただく。又近隣からいただいた野菜や施設で収穫した野菜等選定していただき調理し、おやつをつくったり楽しんでいただいている。 | 業者の献立による食材で調理をしている。家庭菜園で収穫した野菜や近隣農家からの差し入れの野菜で、季節料理を1品と手作りの漬物を加えている。利用者は手作り弁当や手作りおやつを楽しみにしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの体調と1日の食事、水分摂取量を把握している。利用者の状態に合わせて食べやすい形態で提供している。水分をあまり摂取されない利用者様には、1日を通して確保できるよう根気よく対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の口腔ケアを支援している。義歯の方は自己での洗浄後職員が確認し清潔保持をしている。夜間に入れ歯洗浄剤に浸け消毒をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表を作成し、一人ひとりの排泄のリズムを掴み、さりげなく「トイレでの排泄」へ促し自立に向けた支援をしている。 | 布パンツ1名、パット使用が6名、紙オムツが1名で、利用者の排泄パターンを把握して声掛けによるトイレ誘導をしている。ポータブルトイレは使用せず、全員がトイレで排泄をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎朝の体操、自立歩行の方は毎朝自己の部屋の掃除に参加していただく。また午前午後の歩行運動、施設庭で果物の収穫を目標に散歩し体を動かすように支援している。水分補給を充分摂取するようにも取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 常に希望に合わせての入浴はできていないが、できるだけ希望に添えるように努力している。 | 週に3回午前中に入浴をしている。入浴剤を使用したり、菖蒲湯やゆず湯で季節感を味わってもらっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの身体の状態に合わせて休憩していただいている。日中は運動やレクで楽しんでいただき夜間安眠が保てるよう支援している。冬場は一人ひとり電気マットをセットし気持ちよく休める支援をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の情報は一人ひとりファイルし、職員が何時でも確認できるようにしている。薬は事務所内の施錠できる収納場所に保管し、服薬時は職員が支援している。服薬変更等は口頭または申し送りノートに載、全員が把握できるように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 裁縫が得意の利用者様には縫物をお願いしたり折り紙をしたり、気分転換を図り、庭に出て花を摘んだり、秋には薩摩芋、柿、みかん等収穫し、おやつを作り、楽しんでいただけるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 天候に応じて散歩に出かけたり、近隣の造園へ花を見に出かけたり、家族の協力も得て外出する機会を設けている。 | 事業所周辺の農道を散歩したり、庭に出て花見をしたり、柿やみかん狩りをしている。広いウッドデッキでおやつや手作り弁当を食べたり、椿大神社へ初詣にも行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 時々近隣のスーパーへ出かけその時その場で手渡し、買い物していただいている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望があれば電話や手紙が出せる支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 台所、居間兼食堂は1フロアーになっている。壁には利用者様の作品も貼ってあり、窓から季節ごとの様々な花や果物、野菜が一望でき何時でも外部に出られるよう施錠をせず開放的な空間を作り心地よく過ごせるように工夫をしている。 | フロアーは広くて明るく、食堂兼居間の外にウッドデッキがあり、木の温もりを感じる事業所である。エアコンはあまり使用しておらず、石油ファンヒーターと加湿器を用い換気に注意している。窓からの見晴らしも良く、四季折々の花が咲き季節感を感じさせてくれる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 個別の部屋にテレビを設置しここで楽しんでもらったり、居間にソファを置き利用者様の空間の場となっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具や寝具、子供さんや孫さんの写真を掲示し馴染みやすい空間作りを支援し、安心して暮らせる工夫をしている。 | エアコン・ベット・布団は設置しており、衣類ケースやラックかけ等が置いてあり、整理整頓されている。掲示物や家族との写真、行事の写真が貼ってある。廊下やホールには利用者が作成した季節の貼り絵が掲示してある。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 状況に合わせて環境整備に努めている。危険が生じた場合は、本人の不安材料を取り除けるように職員や利用者様と話し合っている。 | | |